

第6次総合計画
宇治市総合計画審議会
第1回専門部会②
議事要旨

宇治市

第1回宇治市総合計画審議会専門部会② 議事要旨

<開催年月日>2021(令和3)11月14日(日)10時～

<開催場所>市役所8階大会議室

<出席者>

・委員

築山 崇(部会長)	京都府立大学 名誉教授
奥西 隆三(副部会長)	社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 会長
土井 邦紘	一般社団法人久世医師会 監事
松本 嘉一	宇治市連合喜老会 会計監査
相川 道代	市民公募委員
下川 浩正	市民公募委員
高田 悦子	市民公募委員

計7名

・理事者

松村 淳子	市長
-------	----

・部長

秋元 尚	市長公室長
本城 洋一	総務部長
脇坂 英昭	産業地域振興部長
福井 康晴	人権環境部長
星川 修	福祉こども部長
藤田 佳也	健康長寿部長
伊賀 和彦	教育部長

・総合計画審議会事務局

貝 康規

大北 浩之

佐々木 卓也

藤丸 博克

政策経営部長

政策経営部経営戦略課長

政策経営部経営戦略課副課長

政策経営部経営戦略課主任

計 12 名

<審議会次第>

1. はじめに

2. 開会

3. 議事

第 6 次総合計画第 1 期中期計画重点施策(案)について

4. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

【事務局】

定刻になりましたので、これより宇治市総合計画審議会第1回専門部会を開会します。

本日の専門部会の開催にあたり、事前に委員長より、専門部会の設置及び委員選出をいただいています。本専門部会は、まちづくりの方向の「子育て・子育て支援が充実したまち」「誰もがいきいきと暮らせるまち」の2つの視点から議論いただく部会です。委員のみなさまにおかれましては、可能な限り、ご専門の分野やご希望の分野に沿うようご選出いただいています。部会長につきましても委員長より推薦をいただいておりますためご紹介いたします。部会長の築山委員です。なお、副部会長は、後ほど部会の中でご選出をお願いします。

専門部会への宇治市の出席者は、各部会に係る部長が出席しています。また、特に本専門部会に関連が深い部局は、より活発な議論をいただくため、委員のみなさまとテーブルを共にする席次としています。委員のみなさまには、忌憚のないご意見をいただけますようよろしくお願いいたします。

2. 開会

【事務局】

それでは、会議を進める前に欠席者のご報告をさせていただきます。

◇欠席者の報告(酒井委員、小永井委員、竹内委員、平田委員 計4名)

会議の進行に先立ちまして本日の会議資料の確認をさせていただきます。

《 資料① 第6次総合計画第1期中期計画重点施策(案) 》

《 参考資料① 第6次総合計画全体像(案)及び第1期中期計画取組例 》

《 参考資料② 》市民アンケート結果自由記述と年代別の重要度 》

以上、3点の資料で会議を進めさせていただきます。

改めまして、本日は、前回までにご議論いただき方向性を確認してきました第6次総合計画の基本構想の実現のために重点的に取り組んでいく「第1期中期計画重点施策(案)」について、ご

議論いただきます。重点施策(案)は、第4回総合計画審議会の全体会でもご提示しました3つの重点施策「WITHコロナ・POST コロナ時代の安全・安心」「みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会」「活力あふれる産業振興と未来への投資」について、事務局より重点施策に係る施策(案)をご提案します。その施策(案)についてご議論をいただきたいと考えています。

それでは、会議の目的及び進め方を説明させていただきます。本日は、3つの重点施策についてご議論いただきたいのですが、その参考となる資料である参考資料①及び参考資料②を順に説明します。その後、資料①を用いて3つの重点施策ごとに説明しご議論いただくという流れで進めさせていただきます。

3. 議事

第6次総合計画第1期中期計画重点施策(案)について

【部会長】

本日はご参加いただきましてありがとうございます。直近3回の審議会はオンラインでの実施でしたが、今回は久しぶりの対面での会議となっています。

本日は、第1期中期計画の重点施策(案)についてご審議いただくことになっています。本専門部会では、日頃ご活躍の分野などの立場からご意見をいただく場となっています。

それでは、副部会長の選出に入りたいと思います。立候補あるいはご推薦はありますか。

(委員からの立候補及び推薦なし)

特にないようですが、事務局いかがでしょうか。

【事務局】

社会福祉法人宇治市社会福祉協議会の会長である奥西委員に依頼をさせていただきたいと考えていますがいかがでしょうか。

(承認)

【副部会長】

みなさまと一緒に頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【部会長】

それでは審議に入らせていただきます。本専門部会では、「子育て・子育て支援が充実したまち」「誰もがいきいきと暮らせるまち」の視点から議論していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、事務局より資料の説明をお願いします。

(事務局より参考資料①②及び資料①の重点施策1の説明)

【部会長】

これまでの審議会の全体会で審議してきました全体像の内容、そして市民アンケート結果などの説明をいただきました。それでは「重点施策1:WITH コロナ・POST コロナ時代の安全・安心」についてのご意見をいただければと思います。

なお、審議会での意見がすべて最終的な計画になるのではなく、この場での意見を答申として市長へ提出し、議会に諮り、最終的な計画が作り上げられます。そのため、忌憚のない多様な意見をいただき答申に反映させることで市の計画につなげていきたいと考えています。

【委員】

審議に入る前に確認させてください。1つ目は、計画は、市民が読みやすく、理解しやすい表現である必要があるため、注釈が必要な用語は避けてほしいです。2つ目は、これからの宇治市に希望を抱けるような計画にしてほしいです(空想ではなくデータや識見に基づく計画としてほしいです)。3つ目は、総合計画の下位計画である各種計画との整合が必要です。そのため、各種計画について、策定済み、あるいは素案ができていない計画をご提示いただくことは可能か確認したいです。最後に、前回の会議後に提出しました意見シートの取り扱いについて確認したいです。

【事務局】

各種計画は、今後ご審議いただくにあたり必要な計画はご提示させていただきます。

意見シートでいただいたご意見は、現在作り込みをしています中期計画において参考あるいは反映を検討しているところです。また、計画に関するご要望は、いただいた視点を踏まえてとりまとめを進めさせていただきます。

【部会長】

各種計画は、必要なタイミングでご提示をご検討ください。また、次回の第2回専門部会では、現在ご提示いただいている資料を基に、より具体的な項目をご提示予定であり、その中で意見シートの意見が反映されることとなります。

【委員】

施策の柱③の「市民の命を守る安全・安心の確保」では、主に地域や環境の安全・安心が打ち出されていますが、普段子育て支援において保護者の話を聞く中で、若い子どもを対象としたワクチン接種が進められていますが、子どもにワクチン接種を受けさせた方がよいかという相談が多くなっています。自分は専門家ではないため判断はできませんが話を聞くことはしています。また、コロナ禍でDV件数や自殺件数も増加しているため、市民の命を守るために、不安を感じている方の気持ちを受け止める場所などの相談体制が必要ではないかと感じています。

【委員】

施策の柱①の「感染拡大防止の徹底」について、情報が不足していると思います。ワクチン接種やPCR検査、治療や診断などを受けたくてもどこでどのように手続きをすればよいかのわかりにくいです。

そのため、行政と医療など関係者一体となった情報発信が必要と考えます。国に問い合わせても確実な数値の提示がないため、医療従事者も市民も右往左往しています。昔は、国からの情報を医療機関が受けて市民に配信するという流れでした。しかし、現在は、国からの情報はネットを介して、医療機関も市民も同時に情報を得られる状況であるため、情報が錯綜しています。そのため、よりわかりやすい言葉で、正確な情報を発信することが必要と考えます。また、わかりやすく、かつ、読みやすいよう文字を大きくしてほしいという要望も多いです。

【福祉こども部長】

複雑化している世の中で、さまざまな課題を抱えている人が多くなっているため、現在策定中の地域福祉計画でも同じような議論をしているところです。その中で、包括的な相談や支援体制の整備を1つのテーマとしています。そのため、地域福祉計画の内容と整合を図りながら、対策を検討していく必要があると考えます。

【市長】

情報については、行政も同じタイミングで情報を知ることが多くなっています。特に、今回の新型コロナウイルス感染症の対応では、国から情報が発信される時期の遅さや京都府での判断時期、情報を認知する時期の遅さなどもあり、ネットなどのニュースの方が先行していたという状況です。「わかりやすい言葉」「迅速さ」を心がけていきたいと考えていますが、市として情報が精査できていない状態でわからない情報を出すことはできません。また、市としてどのような対策を講ずべきかが決まっていない状態の場合、市民に不安を与えることになってしまいます。新型コロナウイルス感染症は、感染症の様態がようやく明確になってきていますため、市としても可能な限り迅速に情報を発信できるようにしていきたいと考えています。また、文字の大きさはご指摘のとおりですので配慮したいと考えています。

【部会長】

ご意見のありました相談体制は、どの柱に位置付けるかは検討が必要ですが、感染症にかかわる相談体制は住民ニーズが高いため、施策(案)に追記することをお願いしたいです。また、情報については、自治体として今回の新型コロナウイルス感染症への対応で得た経験値や地域の実態、住民ニーズを踏まえた情報の正確性と情報発信のタイミングが重要であるため追記をお願いしたいです。

(事務局より資料①の重点施策2の説明)

【部会長】

重点施策の名称は、まちづくりの方向の「子育て・子育て支援が充実したまち」「誰もがいきいきと暮らせるまち」の方向性が合わさった表記になっているという理解でよいでしょうか。

【委員】

施策の柱①の施策の視点①-2の「就職・結婚から出産、子育てまで切れ目のないサポート体制の構築」について、コロナ禍で出生率が低下しています。また、コロナ禍で妊娠、出産された方はしんどかったという声をよく聞きます。10数年前と比べて、共働きの家庭が増加しており、産後休むことなくすぐに職場復帰している方も多く、産前産後のケアについて充実をしてもらえると助かります。母親が元気でないと子どもを元気に育てることができないため、母親へのサポートを充実してほしいです。

【委員】

宇治市の食育の委員をしていましたが、共働き家庭の母親は子どもの栄養のことをよく考えています。しかし、母親自身は、子どもを保育所に送っていき、車の中でパンを食べて職場へ向かっているなど、自分の体の栄養のことに意識が向いていないのが実態です。

自分は、妊娠時から生まれた後(後期高齢者になるまで)の健康と疾病に関する研究をしていましたが、妊娠時に母親が十分な栄養がない場合、例えば、低体重で生まれた子どもは将来生活習慣病になる確率が高くなるというイギリスで研究発表がありました。そのため、母親が安心して子どもを産み育てることができる環境は非常に重要であると考えます。

【委員】

一部の地域子育て支援拠点では、日曜日に開設しており、そこでは父親の参加が非常に多く、父親が子育てに参加したいという意識も高まっています。子育てに関わりたいけど関われない方も多いため親の働き方に関する記載が必要と考えます。

施策の柱①の施策の視点①-2「就職・結婚から出産、子育てまで切れ目のないサポート体制の構築」で切れ目のないサポートをするため、個々の支援だけではなく、それをつなぐ人(コーディネーターする人)が必要です。子どもを見るのではなく、家庭をサポートすることも必要になると思います。これまで子育て支援拠点では就学前の子どものサポートが中心でしたが、18歳未満の家庭へのサポートにも取り組んでおり、思春期の子どもへのサポートも必要になっています。

【委員】

わかりにくい表現には、難しい言葉(「DX」「Society5.0」)、わかるようでわからない言葉(「子育てに優しい」など)の2種類があります。このような言葉を使用する際は注意してほしいです。

また、子育て・子育ちは大切にしてほしいですが、当事者は子どもであるため、当事者がどのように考えているか、自分が住んでいる町内では40名が手分けして通学路に立って朝の挨拶や見守りなどを実施しています。子どもには思い出作りが必要ですが、コロナ禍で行事やイベントが中止になっているため、代替策を地域で検討しているところです。子どもが夢と希望を持って「遊び」「学び」「生活する」という表現を盛り込んでほしいです。

【部会長】

施策の柱②の施策の視点②-3「地域全体で支える子どもの育ち」に関わる意見となっています。また、一見わかりやすいようで、わかりにくい言葉について、より具体的なイメージを持った表現の工夫をお願いしたいです。行政の視点と生活の視点(市民の視点)の違いはあるため難しいですが、会議体の中で調整できればと思います。

【委員】

小学校に入学した際に早生まれの子どもとそうでない子どもには発達に差があります。また、低体重で生まれた子どもの発達にも差があります。子ども本人が発達の遅れで劣等感を持ってしまい、犯罪につながる恐れもあります。

諸外国での研究では、発達の遅れは成長過程で取り戻せる可能性が高いです。そのため、教育者には発達の遅れをあきらめずに対応してほしいです。幼い時の心の傷はなかなか取れないため、温かい目で見接し、育てることが必要です。学年間の交流も対応策の1案です。また、学校教育だけではなく、社会教育の仕組みが必要と考えます。

【部会長】

施策の柱①の施策の視点①-2「就職・結婚から出産、子育てまで切れ目のないサポート体制尾の構築」に関するご意見です。幼児期は短い期間で変化が速いため、保育園では園により生まれ月によりクラスを分けて対応しているところもあります。

【委員】

働いている方は地域にいる時間が少ないです。先日、親のための防災講座を開催いただきましたが、地域に帰る時間がない中でどのように対応されているか気になります。共働きも多くなっており、地域とのつながりや地域づくりがとても難しいと考えます。

【部会長】

11 頁の施策の柱③の施策の視点③-1「地域が活性化する仕組みづくり」に関する意見ですが、時間がない中で、地域でどのようにつながりを作っていくか、また、つながりを作ることが義務になると負担になりますが、地域の想いを実現できるようなつながりは重要であると考えます。

【福祉こども部長】

市では、妊娠届を提出時に母子手帳を発行し、担当者が決まります。そこから市の伴走がはじまり、家庭環境などを確認の上、必要な支援をしています。また、本年度から産後検診(産後 2 週間目に受診)を実施しており、産後ケアは 1 歳までの母子の支援をしています。8 頁の施策の柱①の施策の視点①-2 に記載しています「養育支援」は、母親だけではなく父親を含めた家庭を支援していくことを想定しています。

低体重や早生まれの子どもへの対応は、担当保健師が対応しています。父親への支援は、今後必要であるため引き続き切れ目のないサポートが必要と考えています。母親の栄養管理は、今後どのような支援ができるか検討していきたいと考えます。発達に課題がある子どもへの支援は、保育園や幼稚園、小学校への接続の観点から、9 頁の施策の柱②の施策の視点①-1「乳幼児教育・保育の充実」の中で対応を検討していきたいと考えます。

【健康長寿部長】

ライフステージに応じた必要な支援について、市民への情報提供方法はより工夫が必要であると考えています。また、課題がある家庭や子どもへの個別支援は、いかに市民と協働した取組ができるかについて健康づくり分野や食育分野において検討可能と考えます。地域の団体と協働して、団体同士でつながることで新しいことに取り組む、多くの市民が参加することで取組が進んでいくことを想定しています。個別支援も維持しながら、共にできる機会や場所をつくることが今後の課題と考えています。

【教育部長】

現場では、「発達」と「発育」の違いについて個々の教員がしっかり見て取組を進めています。また、思春期、特に中学生のサポートや違い・変化は、学校内で教員が注意をしながら対応してい

ますが、子どもだけではなく、家庭の背景などを含めて、ソーシャルワーカーがアウトリーチしているため、今後もサポートを続けていきたいと考えています。

子どもの思い出作りは、行事やイベントがコロナ禍で中止となっていますため、WITH コロナや POST コロナ時代でどのように機会を作っていくか検討する必要があります。家庭や地域が協力して子どもを育てていくことを想定しコミュニティスクールにも取り組んでいます。

【人権環境部長】

第5次 UJI あさぎりプランで、男性の育児・介護への参加の促進に取り組んでいます。この計画策定時の市民アンケート結果から「男性は仕事、女性は家庭」という固定観念は薄れてきていますが、職場での理解や環境が整っていないため、産業部門などと連携し、男性のワークライフバランスの視点からも支援に取り組んでいきたいと考えています。また、思春期の子どものサポートは、相談窓口を設置していますので周知をしていきます。

【産業地域振興部長】

共働き家庭では、地域とのかかわりが難しいです。地域コミュニティの観点から町内会・自治会単位では解決できない課題もあるため、各種団体などと連携することで地域コミュニティの観点からさまざまな取組を進めていきたいと考えています。

【部会長】

新型コロナウイルス感染症の影響もあり不登校児童への対応は記載がありますが、コロナ禍でかなり増えてきています。このような数値の量の変化は、質にも影響していると思います。また、中学校の校内暴力なども問題になった時期がありますが、最近の状況なども確認が必要です。大人不安は子どもに伝わります。特に思春期の子どもは敏感であるため注意が必要と考えます。

(事務局より資料①の重点施策3の説明)

【部会長】

16 頁の施策の柱②の施策の視点②-1「交流基盤の整備」の施策の一例の新名神開通の機会を活かした道路交通網の整備の推進について、新名神は城陽市から奈良へつながるルートです

が、高速道路につながる既存の幹線道路が、新名神開通に向けて進めていることや今後の予定があれば確認したいです。

【委員】

総合計画の全体像では、産業関係の分野として「農業」「商業」「工業」がありました。

宇治市においては、コロナ禍で特に「健康のまちづくり」が非常に大切であると考えています。「農業」「商業」「工業」だけではなく、子どもから高齢者までが健康で暮らしていくまちづくりは、医療と介護を中心とした健康サービス産業を考えていく必要があると思います。15頁の施策の柱①の施策の視点①-4「茶業の継承・発展」も大切ですが、お茶を健康づくりの観点や安らぎや安心を支える役割などの観点を盛り込んでもよいと考えます。

生活環境の面からは、道路や鉄道だけではなく、バスも必要です。移動は、基本的な人権であるため交通の問題は大切であると考えます。

【副部長】

コミュニティスクールが来年の春に開始予定ですが、地域の活性化において地域の仕切り直しとしての大きな効果があると考えます。子どもに通わせたい小学校があるため市外から宇治市に引っ越したという話を聞いたことがあるため、市外からの移住のきっかけにもなると思います。

【産業地域振興部長】

産業面からの健康は、さまざまな事業者を対象として検討していきたいと考えています。宇治茶を健康の観点から見たご意見は、お茶は健康への効果があることもわかっているため検討していきたいと思います。また、道路交通については、新名神の開通による影響(人の流れへの影響)を踏まえて検討していきます。

【部会長】

それでは、本日の議題について、全体を通してご意見がありましたらご発言をお願いします。

【委員】

市の危機管理室と共同で災害時の拠点(避難所)を小学校に依頼しています。防災については市民アンケート結果でも市民の関心が高くなっています。自分が留学していた時に子どもをオ

オープンスクールに通わせていました。そこでは、両親や地域の人なども集まって楽しむことができたため、それを参考に学校を中心としたコミュニケーションができないかと考えています。

また、宇治茶については、宇治市出身の人はお茶の種類や作法を知っているかと尋ねられた時に答えることができるのはどの程度いるか疑問です。行政からみた宇治市だけではなく、宇治市から転出された方の意見を聞くことも必要ではないかと思えます。

【委員】

自分は、京都の北部出身で京都市内に住んでいましたが、宇治市は学童が充実しているため引っ越してきました。定年を迎えて地域で何ができるかを考えており、他市（愛知県一宮市など）では地域連携がすごい地域もあることをよく聞きます。身近なところに宇治茶があればよいと思います。関東圏には道の駅がたくさんありますが、宇治市に車で来ても駐車場が不足していると思います。宇治市のことをまだ十分に知らないですし、宇治市で居場所を探していますが、情報が不足していると感じます。そのため、地域での取組に関する情報をもっとほしいです。今後、まちがますます発展していけるような取組を進めていく必要があると思います。

【部会長】

子どもとの遊びを含めて大人の学びを豊かにすることに力を入れてほしいです。学習は短期的な成果を評価しにくいですが、将来のことを考えた時にきちんと考えておくべきであるため、具体的な取組をお願いしたいです。

【教育部長】

現在、一部の学校ではオープンサタデーの取組をしています。しかし、保護者の参観の機会になっており、地域の方の参加は今後の課題であると考えています。コミュニティスクールを子どもたちのために作っていく、学校と地域で協力する方向ですが、地域の方が子どもたちのためにできることについても取組を検討していくことが必要と考えます。

また、大人の学びの話もありましたが、小中学校では宇治学の授業があり、高齢者を対象とした鳳凰大学があります。その間の年代の方を対象とした学びの機会は検討が必要と考えています。

【福祉子ども部長】

子どもが育っていく(子育て)という視点を持って取り組みを進めていくことを考えています。重点施策や中期計画の分野でも子育て・子育ての取組を盛り込んでいます。また、子育て環境の魅力を情報発信することもしっかり取り組んでいきたいと考えています。

【市長公室長】

広報を担当していますが、今回、まちづくりの土台の中で情報発信についての取組を記載することとしています。市ではさまざまな施策や取組を行っていますが、市民に伝わっていないこともあり、情報発信が課題であると考えているため、今後、戦略的な広報や魅力発信など、情報発信力の強化をしていきたいと考えています。

【部会長】

今回は、施策の一例となっていますが、次回は各分野の具体的な内容をご提示いただける予定です。

4. 閉会

【部会長】

それでは、本日の議論はこのあたりで一旦閉じさせていただきたいと思います。

閉会にあたり松村市長からご挨拶の申し出がございます。

◇市長よりご挨拶

本日はありがとうございました。7～8年前に宇治市の総合計画の中期計画の審議会の委員として京都府職員の立場で出席したことを思い出しました。その審議会で感じたことは、宇治市の職員からは「これはできています」「あれはできています」という発言が多く、審議会の意見をどのように反映してくれるのかと疑問に感じていました。今回の審議会でも市の取組のお伝えが中心でしたが、一部、今後の方向性をお伝えできたと考えています。

市長の立場になり、宇治市の取組(今ここまでできている)の情報発信が不足していることを痛感しました。また、今回の計画は12年間の計画ですが、特に今日ご議論いただいた重点施策は今後4年間で重点的に進めていきたいことですが、これまでに取り組んできたことに対し

てどのような積み重ねをしていくか、12年先を見越して何を準備していくかを位置付けていきたいと改めて感じました。とりわけ、道路整備について、新名神は、令和5年度に完成を予定しています。現時点で、宇治市で道路整備の予定はないため、完成したときにどのように対応するのか、また、12年後に向けて国に対してどのようなことを望んでいるのかについても計画に記載していきたいと考えています。

本日いただいた意見については、市で具体的に位置づけられていないこともありましたが、ご意見をかみ砕いて計画に反映させていきたいと考えています。

【委員長】

それでは以上をもちまして、本日の審議会は閉会したいと思います。

長時間に渡りましてどうもありがとうございました。

---了---